

PRAEVIDENTIA DAILY (2月4日)

昨日までの世界：ドル/円は一連の好材料に不感症

昨日は、ギリシャ懸念の後退を受けたユーロ続落、そして原油価格の続伸を受けたカナダドルの上昇が顕著となった。

ユーロは、前日の Varoufakis ギリシャ財務相による債務問題に関する新提案に続き、**今週中に同財務相が Draghi・ECB 総裁と会談するとの報道**が流れると、ギリシャと債権者側との交渉進展への期待感が高まったことから大きく上昇、対ドルで 1.13 ドル台半ばから一時 1.1532 ドルへ、対円で 13 円丁度近辺から一時 135.17 円へ急伸した。この間、ギリシャ 10 年債利回りは 1%ポイント以上低下、同国株式も大きく上昇している。

カナダドルは、原油価格続伸を受けて対米ドルを中心に大きく続伸し、米ドル/加ドル相場は 1.26 ドル台から一時 1.2351 ドルへ下落した（カナダドル高）。

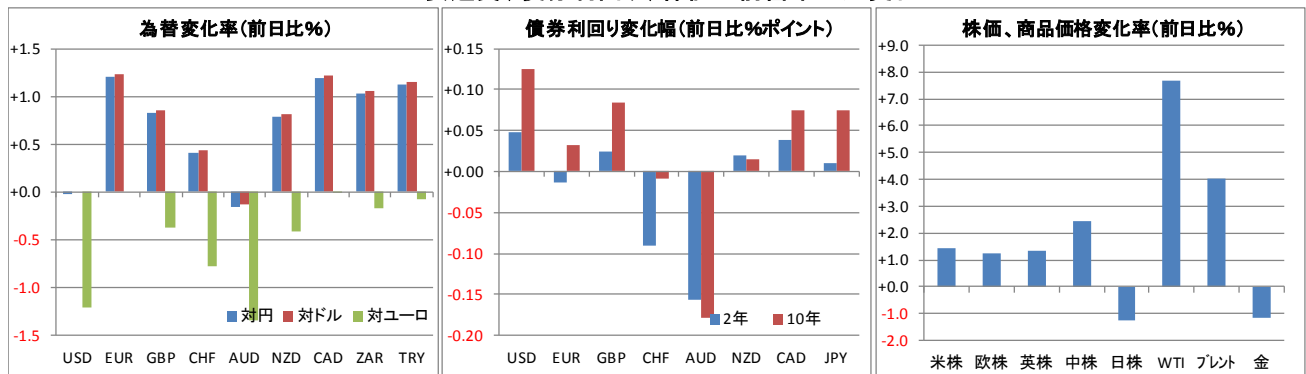
豪ドルは、RBA が政策金利であるキャッシュレートを 25bps 引下げ 2.25%としたことを受けて、対米ドルで 0.78 ドル台から一時 0.7623 ドルへ急落した。今後の追加緩和も織り込む動きと言え、今週金曜発表の RBA 金融政策声明の内容に注目が移っている。もっとも、その後の原油続伸とカナダドル高につれるかたちで急反発し、豪ドル/米ドル相場は急反発、一時 RBA 利下げ発表前の水準を上回った。豪ドル/円も、91 円台半ばから一時 89 円台前半へ急落した後、91 円台を回復して引けている。

NZ ドルも豪ドルとほぼ同様の動きとなり、0.73 ドル丁度近辺から一時 0.72 ドル割れへ下落した後、**世界乳製品取引 (GDT) オークションで価格指数が前回比+9.4%上昇、4 回連続の上昇**となったこともあって反発が大きくなり、一時 0.74 ドル台を回復した。

この間、ドル/円相場は、ギリシャ懸念の後退、原油高、米自動車販売の予想比上振れ（年率 1,666 万台）、そして米株高といった一連の好材料を受けた米中長期債利回りの大幅上昇にも拘らず上昇は限定的で、117 円台前半を中心とした方向感のない展開に終始した。

なお、トルコリラは、**同国 CPI が前年比+7.24%と大きく低下したものの、前月の+8.17%と比べて 1%ポイント以上低下しなかった**ことから、1%ポイント以上の低下を条件に開催を予定していたトルコ中銀の本日の臨時会合が開催されないことになったため、目先の利下げ期待が後退し、大きく上昇した。次回開催は 2 月 24 日の定例会合となる。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：冬の嵐の前の静けさ？

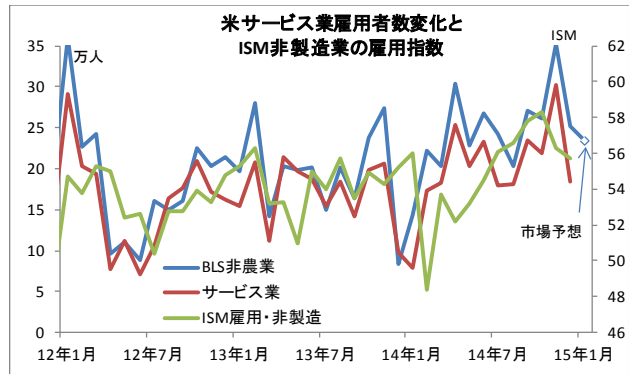
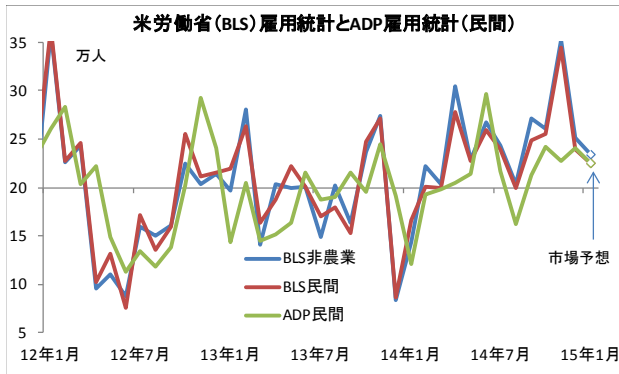
きょうの注目通貨：EUR↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
Wheeler・RBNZ 総裁発言	9:00			
岩田日銀副総裁発言（講演）	10:30			14:00に会見
中国1月HSBCサービス業PMI	10:45	53.4		
英1月サービス業PMI	18:30	55.8	56.3	
ユーロ圏12月小売売上高・前月比	19:00	+0.5%	+0.2%	
米1月ADP民間雇用者数	22:15	+24.1万人	+22.5万人	
米1月ISM非製造業景況指数	0:00	56.2	56.3	前月雇用指数は55.70
Powell・FRB理事発言	0:00			中立、常に投票権あり
Mester クリーブランド連銀総裁発言	2:45			ややタカ派、投票権なし

（出所）トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

ドル/円は引き続き方向感がなく、116～119 円のレンジ推移となりつつある。明確な方向感が出るには金曜の雇用統計、特に平均時給の回復度合いを見極める必要があり、本日のADP民間雇用やISM非製造業景況指数は、余程大きく市場予想から乖離しない限り、ドル/円のレンジ継続を確認するに留まりそうだ。但しどちらかという、ADP民間雇用は前月からの増加ペース鈍化が予想されており（下図を参照）、今後2月分以降の統計に、1月26日に米北東部に到来し歴史的な吹雪とされた冬の嵐（Juno）の経済への悪影響がどの程度出てくるのかも、昨年の悪天候の米経済への悪影響の大きさの記憶が新しいだけに注目される。またISM非製造業景況指数も、前月比横ばい圏内の予想となっているが、既発表の製造業分が悪化しているだけに下振れリスクが意識され、ドルの上値が更に重くなりそうだ。他方、原油価格の反発が続けば、ドル/円相場も遅れて反応してくる可能性もあり、レンジ相場ながらも上下両睨みの必要がありそうだ。

ユーロは、ギリシャ懸念の後退を眺め、慎重な買い戻しが続く可能性がある。他方、豪ドルは、そもそもの利下げの最大のきっかけとなった原油安の反転が本物なのかを見極める展開で、原油価格を眺めて追加利下げ期待とその後退の思惑が交錯し易く、豪ドルは上下に振れる展開となりそうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641